

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドルチェ		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日 ~ 2024年11月21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 11月8日 ~ 2024年 11月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・施設が新しく、広い	・本人の特性、ペースに合わせて居室や空間分けの対応をしている。	・児童の様々な表出に対し職員間で情報や意識の共有。
2	・研修を受ける機会が多くある。	・様々な研修に参加できるように案内を、掲示や提案をしている。	・自事業所の児童の特性に合わせた研修の企画や提案。
3	・保護者とのコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できる。	・保護者が迎えに来た際、児童の話だけでなく、家庭での様子や悩みなどの話もできるような雰囲気作り。 ・年2回の保護者面談で、悩みや課題の共有を行っている。	・保護者だけでなく、利用者の関係機関との連携も強化していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動プログラムが固定化しがち。 ・個々の活動が多く、集団で行う活動が少ない。	・各利用者の特性に幅があり、活動への参加が難しい方もいる。 ・自分の好きな活動以外の活動を提供することで不安定さが見られる児童もいる。 ・以前のコロナ禍によって活動を制限されてしまった。	・コロナ禍が終わり、様々な活動(おやつ作りなど)を提供できるようになってきたため、企画する機会を増やす。 ・利用者個々の特性を理解し、それぞれが楽しめる活動を複数提供していく。
2	・定期的な会報の発行をしていない。 ・保護者迎え時に口頭で伝える以外に活動を伝える手段がすくない。(玄関にて月のアルバム掲示)	・会報を配布する時期を決めていない。 ・担当や役割分担を明確にしていない。	・会報を作成する時期や役割等を明確にする。
3	・地域住民との交流する場面が少ない。 ・地域住民が参加できる活動や行事が無い。	・地域住民との関わりが少ない(近くの高校のサッカー部との交流はあり)	・地域住民が参加できる行事の企画

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わかな			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～	2024年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～	2024年 11月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・自然豊かな地域の特色を活かした、外出する頻度や行先の豊富さが強み	・活動班毎のプログラム確認や実施後の情報共有を、意識的に図っている ・地域の公園やビクターセンター、児童館等公共施設に関する情報収集を行っている ・大きな地図に活動場所を記入して共有している	・他事業所や関係機関と連携を図り、日常のプログラム提供や利用児童の理解を深める取り組みを努力していきたい
2	・3部屋あるの活動室を活かし、障害像や特色に合わせた環境を提供できることが強み	・年齢や特性に合わせ、少人数での活動プログラムを提供している ・状況に応じて協力体制をとっている	・音楽療法やリトミック等、雨天時に屋内で提供できる活動プログラム充実に向けて、情報収集を行ってきたい
3	・少人数での支援体制だからこそ可能な、スムーズな情報共有やチーム力が強み	・活動班毎のプログラム確認や実施後の情報共有を、意識的に図っている ・終礼や会議を通して、活動プログラムや利用児童の情報を共有している ・チーム形成を図る研修プログラムを実施した	・支援員個々の資質向上を目指し、研修プログラム等に参加してチームで共有を図ってきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域住民との交流の機会や、保護者同士の交流の機会は希薄である為、課題と思われる	・感染症蔓延以前は、同敷地内にある生活介護事業所にて地域に開かれた行事を開催し、参加していた。現状そのような機会が少ない事が要因のひとつと考えられる	・限られた時間ではあるが、送迎時等保護者同士が顔を合わせる機会に、交流が図れるような声掛けや工夫からはじめていきたい
2	・他事業所や関係機関との連携の希薄さは、課題と思われる	・研修や会議等の場で顔を合わせる機会はあるが、積極的な状況とはなっていない	・自立支援協議会や放課後連絡協議会等の繋がりを大切にしなが、閉鎖的な環境とならないよう交流・情報共有や連携を図ってきたい
3	・外部での研修会や勉強会等、職員の資質向上を図る機会が少なく、課題と思われる	・事業所内や法人内の研修等に参画する機会は多くあるが、外部研修の機会が少ない傾向にある	・放課後連絡協議会や県知協・県社協等、外部開催の学びの場にも積極的な参加を心がけていきたい

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばるしあ			
○保護者評価実施期間	2024 年 11 月 1 日		～	2024 年 11 月 29 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	16
○従業員評価実施期間	2024年 11 月 1 日		～	2024 年 11 月 22 日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 2 月 8 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の保護者に対する丁寧な対応 保護者アンケートにて様子を丁寧に伝えてくれるとの評価を いただいている	子どもたちが学校やばるしあでの様子を言葉で上手く伝えら れることができず、学校での様子を直接聞くことができない 保護者に対して保護者が気になっている事柄を職員間で把握 し、お伝えしている	日々の職員間の申し送りの際に気になる場面や様子を確認 し、学校や併用事業所との連携を図っていく 子どもたちの新たな表出を記録や情報共有できる時間を設け ている
2	職員間で活発な意見交換ができる	子どもたちの事だけでなく、環境面の課題や保護者とのやり とりについても情報共有し、解決、検討できるよう意識して いる	日頃からコミュニケーションを図り、思いや考えを伝えるこ とができる関係性を築いている 会議においても意見交換できる雰囲気大切にしている
3	外出する機会が多い	こだわりが強い等の障がい特性から家族で外出する機会が少 なく、家庭において新たな経験を積みにくく経験値の浅い子 どもたちが多い現状があるため、新たな経験を積む機会を考 えている	特に長期休暇や休日開所の利用時には、外出する機会を積極 的に設けていく。また、地域交流に関しても、参加できるよ う地域の祭りやイベント等の情報を収集していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭い	活動スペースが狭く、部屋数もないため少人数での対応が難 しい。そのため、不安定な子どもに周りの子どもたちが大き く影響され、落ち着いて過ごすことができないことがある	今後の施設整備に向けて大きな改修はできないが、グルーブ を分け活動に参加できるよう配慮をしている。少人数での対 応をすることで課題の軽減を図る
2	駐車場の利便性が悪い	駐車場が狭く、保護者の送迎時の時間が重なり、渋滞をおこ すことがある。また、雨天時は特に建物の構造上不便さ(滞 れる等)が顕著	できるだけ広い空間が保てるよう公用車の駐車方法等の取り 組みは行っているが解消出来ていないことが多いため、引き 続き改善に向けて取り組んでいく
3	SNSの活用、IT化の遅れ	法人として日常的なSNSの活用が十分でない。また、個別支 援計画書等の書類に関してもIT化が進んでおらず、紙媒体で の対応となっている。保護者世代はネットでの対応に困るこ とがないため今後はITを駆使しスピードと利便性を図りたい。 い。	保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実 施。今後はさまざまな書類に関してIT化の検討をしていく 必要がある

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅支援センターばびるす / 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日 ~ 2024年 11月 29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日 ~ 2024年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に対しての丁寧な対応 ・保護者が気にかけていること等を細かく連絡をもらい安心していているとの評価をいただいている	・ことばのない児童に対して、各関係機関との情報共有を行い、保護者が気にかけている内容を職員間でも共有することで、支援内容の統一と、親御さんへの連絡を密に行っている	・特別支援学校へのお迎えが直接学校に行くことができない状況であるため、親御さんの許可を得ながら学校との情報共有が必要時に行われるように配慮している ・毎日スタッフ間のミーティングの時間を設け、情報共有ができるようにしている
2	関係機関との情報共有を行うことで、より良い支援に繋げることができている	・ご家族からの相談に対して、事業所だけで解決するのではなく、関係機関と連携することでよりよい支援に繋げる努力をしている ・必要であれば積極的に支援会議に参加している	・支援会議に参加することはもちろん、今後は、必要時に会議の立案、参集すること取り組みたい ・職員に必要なスキルを身に付けるための研修にも積極的に参加していきたい
3	職員間で意見交換を活発に行っている	・支援内容だけでなく、子どもの特性の分析や環境面の課題整理、保護者とのやり取りについての情報共有を行い、解決、検討できるように意識している	・日頃からコミュニケーションを図ることで、想いや考えを職員同士が伝えることができるような関係性を築いている。そのため、定期的な職員会議においても意見交換ができる雰囲気がある

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・主な活動室が2階にあるが階段しかない	・視覚にハンデがあるお子さんをお預かりしているため、階段での移動には事故に至らないように細心の注意が必要である	・今後の施設整備に向けて大きな改修は難しいが、必要に応じて1階のスペースに活動を移して対応している
2	・駐車場の利便性が悪い	・駐車場が狭く、保護者の送迎時の時間が重なり渋滞をおこすことがある。	・公用車の置き場所を工夫することによって、事故無く対応できているが、引き続き改善に取り組む必要性がある
3	・SNSの活用、IT化の遅れ	・法人として日常的なSNSの活用が充分でない。また、個別支援計画書等の書類に関してもIT化が進んでおらず、紙媒体での対応となっている。保護者世代はネットでの対応に困ることがないため、ITを駆使しスピードと利便性を図りたい	・保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実施。今後はさまざまな書類に関してIT化の検討をしていく必要がある

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅支援センターぱびるす / 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日 ~ 2024年 11月 29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	14
○従業員評価実施期間	2024年 11月 1日 ~ 2024年 11月 29日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に対しての丁寧な対応 ・お迎えの際にその日の様子をお伝えすることで保護者が安心してくださっている意見があった ・月のお便りを写真付きでお伝えすることで、実際の支援の様子をイメージしていただき状況を理解しながら説明することができている	・幼児期で受容の入り口である時期の保護者とのコミュニケーションは大事であり、細かな連絡を心掛けることで、子どもの成長発達を促すための手立てとなっている ・子育てで親御さんが孤立しないように意識し、それに対する支援を心掛けている	・保護者間での交流を図るためのプログラムをより強化していきたい
2	関係機関との情報共有を行うことで、より良い支援に繋げることができている	・ご家族からの相談に対して、事業所だけで解決するのではなく、関係機関と連携することでよりよい支援に繋げる努力をしている ・必要であれば積極的に支援会議に参加している ・並行通の利用児に対して保育所等へ訪問し、情報共有を行っている	・支援会議に参加することはもちろん、今後は、必要時に会議の立案、参集することにも取り組みたい ・職員に必要なスキルを身に付けるための研修にも積極的に参加していきたい
3	職員間で意見交換を活発に行っている	・支援内容だけでなく、子どもの特性の分析や環境面の課題整理、保護者とのやり取りについての情報共有を行い、解決、検討できるように意識している	・日頃からコミュニケーションを図ることで、想いや考えを職員同士が伝えることができるような関係性を築いている。そのため、定期的な職員会議においても意見交換ができる雰囲気がある

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別対応が可能な部屋が少ない	・個別的に取り組みが必要な児に対して集中的に取り組むための部屋が不足している ・個別に取り組む内容が明確になっている場面で制限がかからないようにしているが、改善すべきであると考えている	・今後の施設整備に向けて大きな改修は難しいが、必要に応じて2階のスペースを利用することで、利用児の支援が滞ることがないように工夫している
2	・駐車場の利便性が悪い	・駐車場が狭く、保護者の送迎時の時間が重なり渋滞をおこすことがある。	・公用車の置き場所を工夫することによって、事故無く対応できているが、引き続き改善に取り組む必要性がある
3	・SNSの活用、IT化の遅れ	・法人として日常的なSNSの活用が充分でない。また、個別支援計画書等の書類に関してもIT化が進んでおらず、紙媒体での対応となっている。保護者世代はネットでの対応に困ることがないため、ITを駆使しスピードと利便性を図りたい	・保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実施。今後はさまざまな書類に関してIT化の検討をしていく必要がある